

保護林再編の検討

目 次

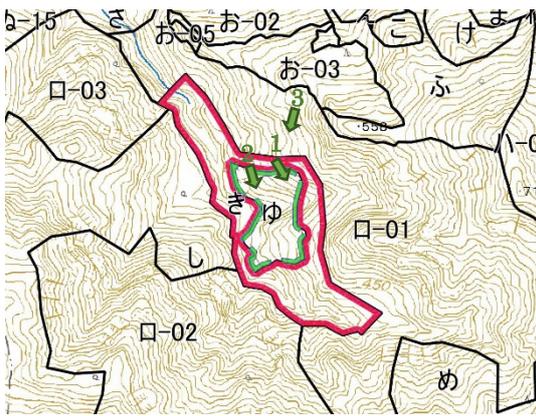
- 1 赤谷山天スギ林木遺伝資源保存林
- 2 赤谷天スギ植物群落保護林
- 3 八丁池ブナ群落林木遺伝資源保存林
皮子平ブナ・ヒメシャラ植物群落保護林
- 4 光徳ハルニレ植物群落保護林
- 5 滝天然サワラ植物群落保護林
- 6 長九郎シャクナゲ植物群落保護林
- 7 増沢モミ植物群落保護林

【 1 赤谷山天スギ林木遺伝資源保存林 】

既設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
林木遺伝資源保存林	赤谷山天スギ	3.00	裏日本型東北・北海道型における天スギの遺伝資源を保存するために設定する。
新設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
希少個体群保護林	赤谷山スギ 遺伝資源	10.77	裏日本型東北・北海道型における天スギの遺伝資源を保存するために設定する。
保護林の再編に関する検討			
<p>赤谷山天スギ林木遺伝資源保存林は、多雪・岩角地域において良好に生育する天スギであり、地域の自然環境に永年順応し、優良な形質を有する樹木の種穂の確保の観点から、林業種苗法に基づく特別母樹・特別母樹林にも指定され、スギの遺伝資源の確保においては極めて重要である。</p> <p>現地調査の結果、保護林を囲む形で隣接する「き」小班の尾根部を主体とした林内においても、保護林と同様に天スギの群落を確認したことから、「き」小班を保護林区域に拡充した上で、希少個体群保護林とする。</p> <p>〔 なお、赤谷天スギ植物群落保護林と統合した上で、保護林と保護林の間を繋ぐ拡張を検討したが、保護林間の区域は主に岩石地であり保護林とすることは適当でないことから統合は行わない。 〕</p>			

■赤谷山天スギ林木遺伝資源保存林 概況写真

保護林内の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 保護林内の天然スギ群落。

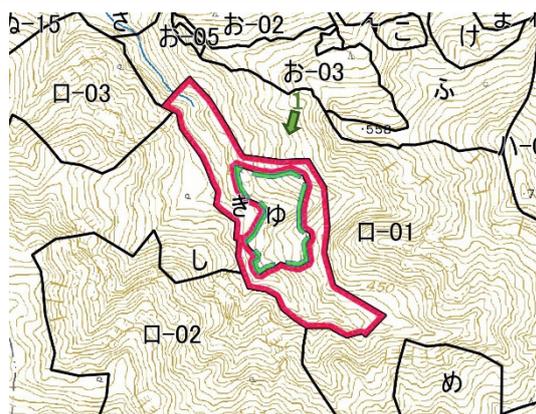


写真番号 2 保護林内の天然スギ群落。



写真番号 3 保護林遠景。

保護林拡充区域の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向

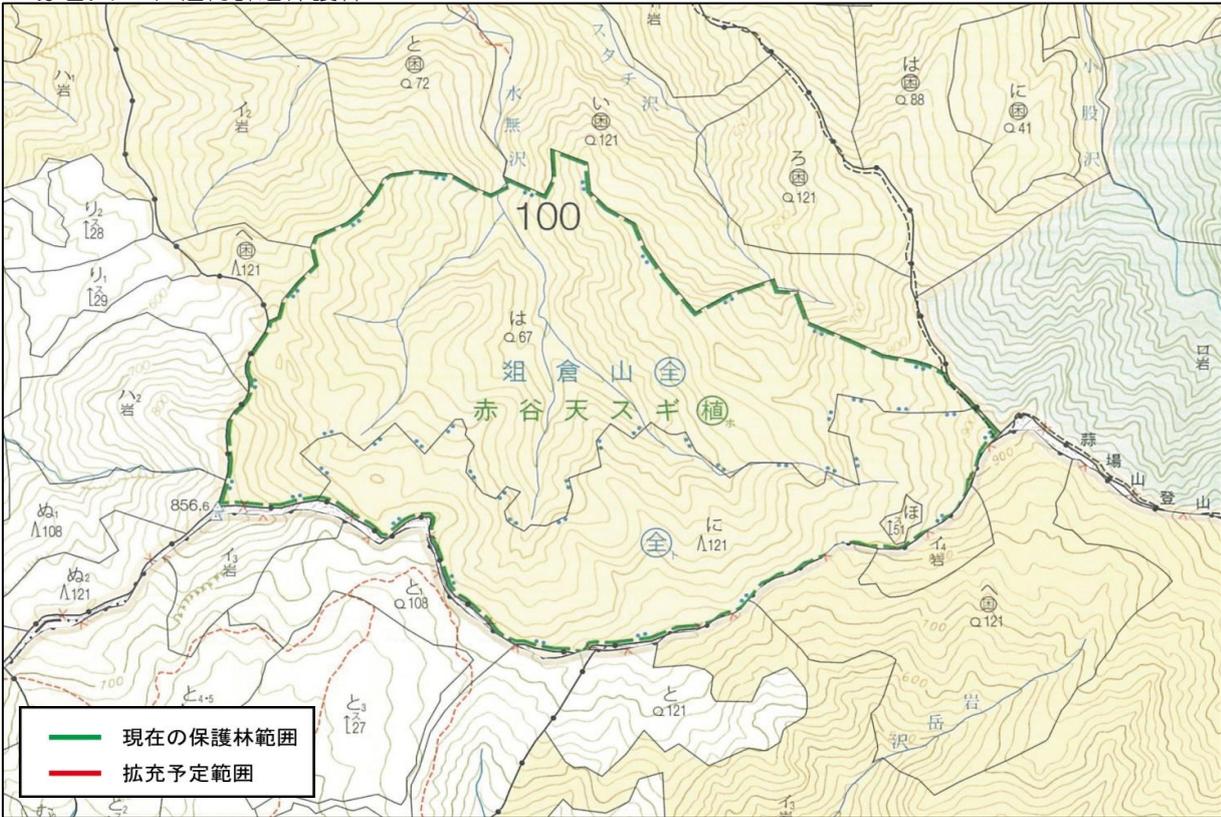


写真番号 1 天然スギ群落は、保護林周辺部の「き」林小班にも広がっている。

【 2 赤谷天スギ植物群落保護林 】

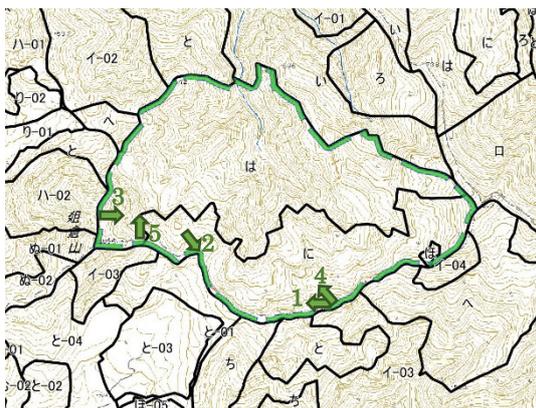
既設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
植物群落 保護林	赤谷天スギ	143.95	通称赤谷スギと呼ばれる天然スギの林分で、種及び学術又は森林施業上貴重な森林であることから、この森林の保護を図るため設定する。
新設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
希少個体群 保護林	俎倉山スギ	143.95	天然のスギや雪崩地帯特有のミヤマナラなどの広葉樹が混生した群落を構成する場所として、植物群落及び学術的価値を有する群落の維持を図るため設定する。
保護林の再編に関する検討			
<p>赤谷天スギ植物群落保護林は、現地確認の結果、豪雪地帯特有の雪崩地形の尾根部には原生状態を保ち大径木に成長したスギが生育し、雪崩地形にあたる斜面部には、ミヤマナラ群落のほか、ブナ、ミズナラ、イタヤカエデなど天然性広葉樹が混生した群落を構成している。当該地域の植生を知る上で学術上に貴重な森林であり、希少な群落個体群であることから、希少個体群保護林とする。</p> <p>本保護林は俎倉山の頂上周辺に位置していること、また、近隣に類似の名称の保護林が設定されていることから「俎倉山スギ希少個体群保護林」とする。</p>			

■ 赤谷天スギ 植物群落保護林



■赤谷天然スギ植物群落保護林 概況写真

保護林内の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。矢印：撮影方向



写真番号 1 尾根上に生育する天然スギの大径木。



写真番号 2 尾根上に生育する天然スギの大径木。



写真番号 3 保護林遠景。天然スギとブナが混交している。



写真番号 4 天然スギと混交するブナ。

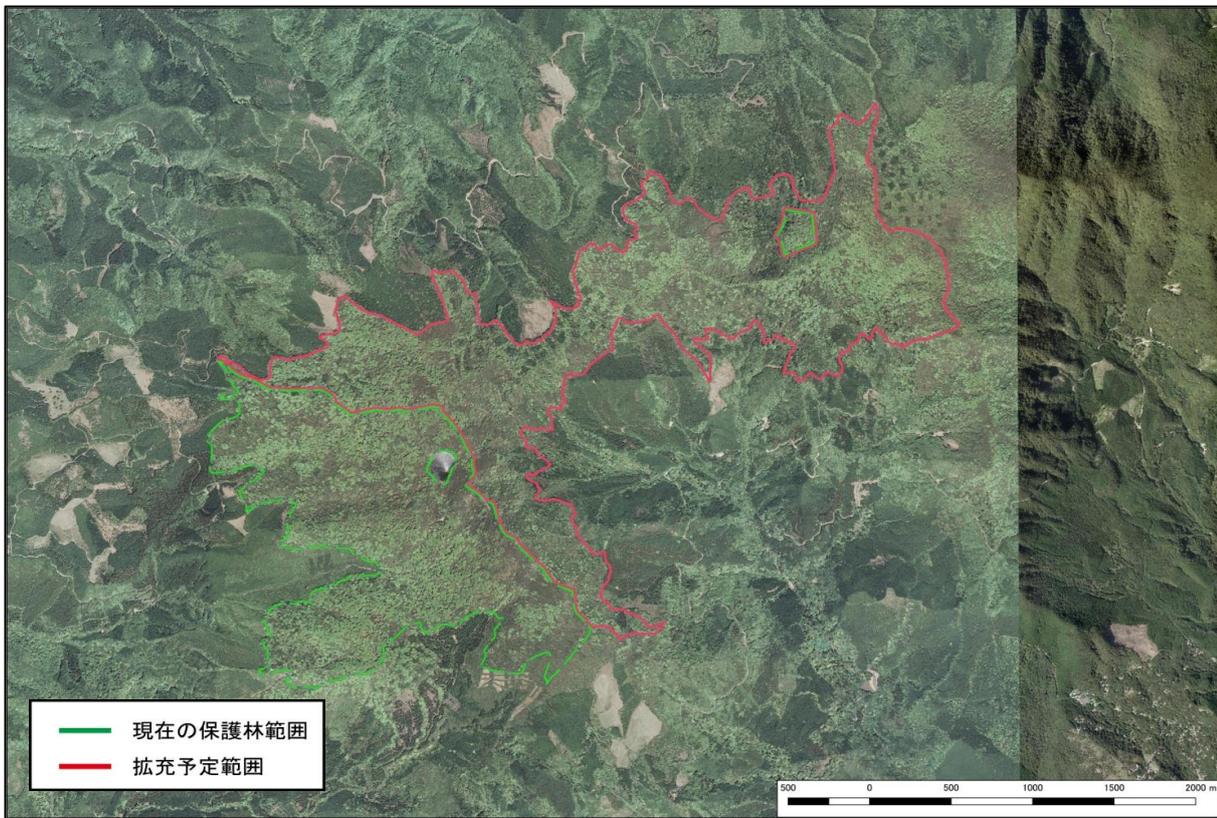
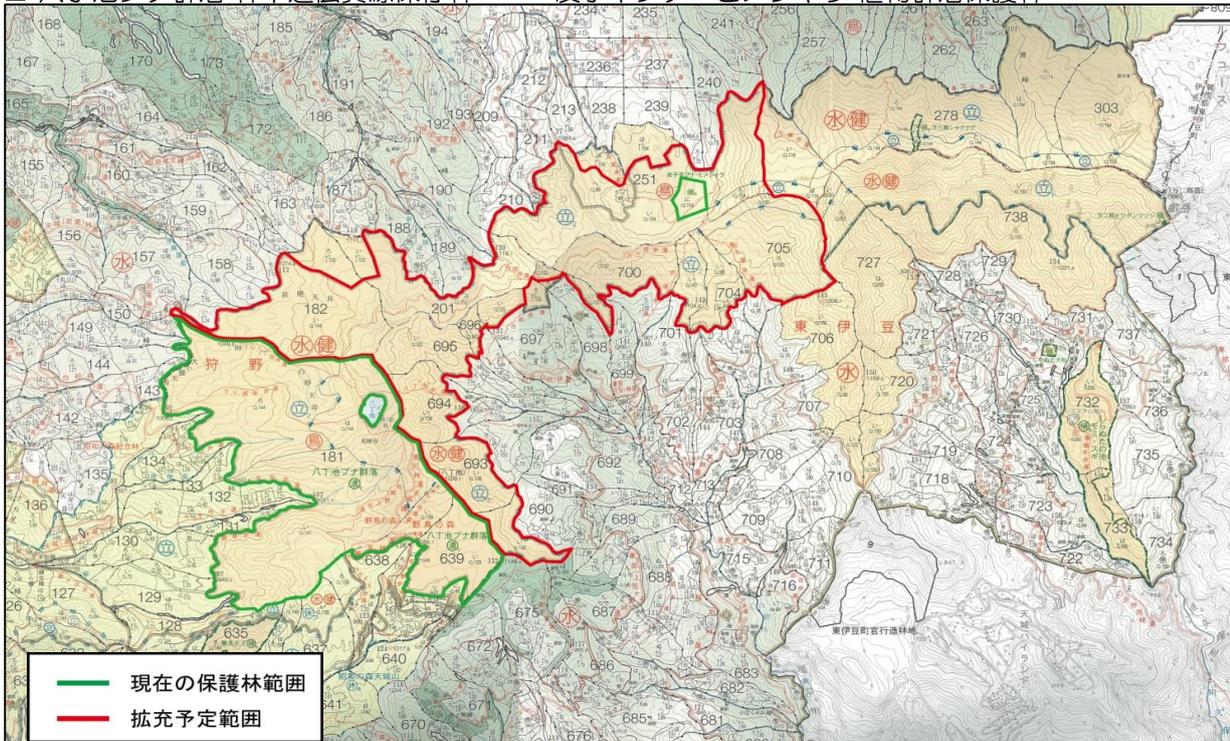


写真番号 5 雪崩によって土壌が流れた急傾斜地に成立するミヤマナラ群落や雪崩地低木群落。

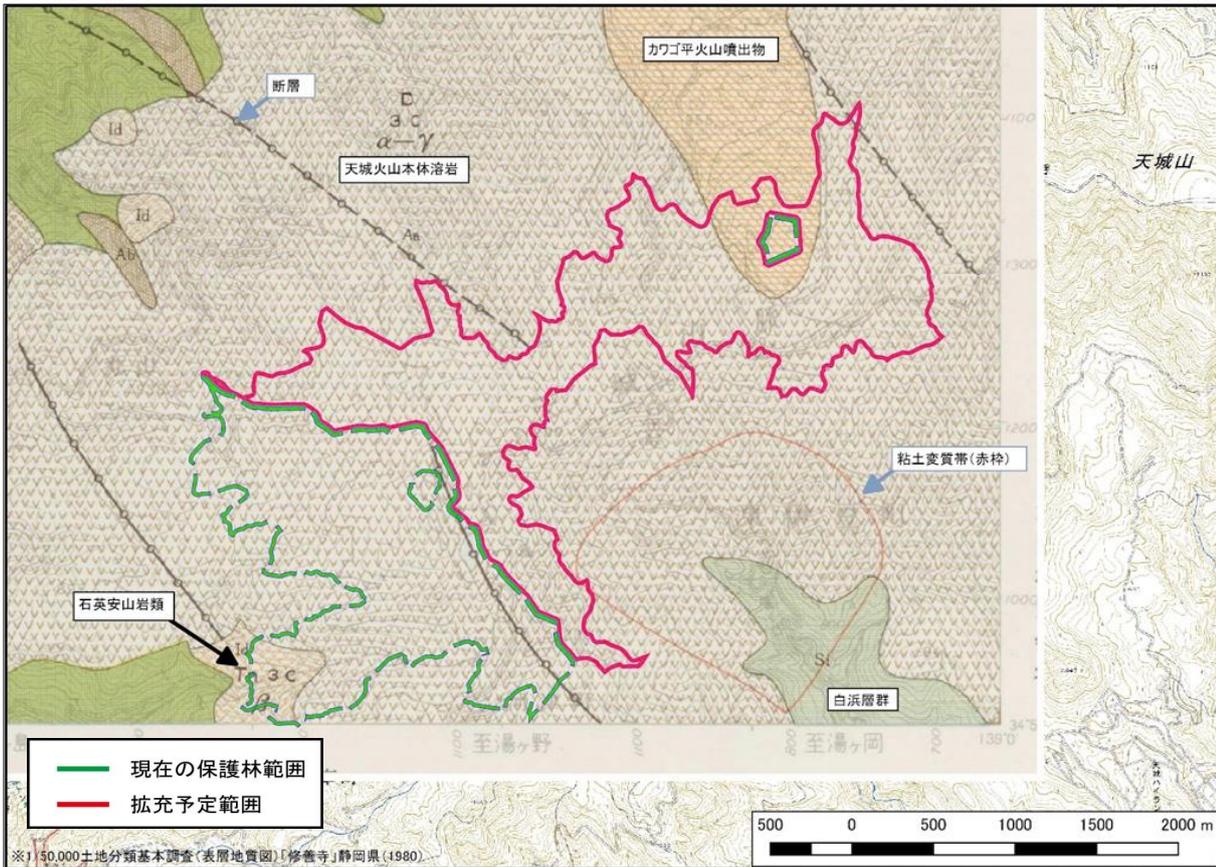
【 3 八丁池ブナ群落林木遺伝資源保存林、皮子平ブナ・ヒメシャラ植物群落保護林 】

既設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
林木遺伝資源保存林	八丁池ブナ群落	252.58	八丁池周辺のブナを主とした天然林で、樹齢が高く原生状態を保っていることから、林木遺伝資源として貴重である。また、伊豆半島の植物地理や植物気候を知る上でも貴重なものであり、これらを保存するため設定する。
植物群落保護林	皮子平ブナ・ヒメシャラ	4.06	極相のブナの下に途中相のヒメシャラが密生する天然林で、植生遷移上珍しいものでありこれを保護するため設する。
新設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
生物群集保護林	八丁池周辺	636.75	該地域の火山地形の歴史を反映したブナ・ヒメシャラ・モミを主体とした地域固有の生物群集を有する森林を保護・管理することにより、森林生態系からなる自然環境の維持、野生生物の保護、遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資するために設定する。
保護林の再編に関する検討			
<p>八丁池ブナ群落林木遺伝資源保存林は、活動を終えた火山である天城山の西麓にあるブナを主体とした天然林である。一方で、皮小平ブナ・ヒメシャラ植物群落保護林は、約3千年前と地史的に新しい時期に噴火した溶岩上に成立しているブナを主体としヒメシャラが混生する天然林である。両保護林とも火山地形上に成立した天然林であるといった共通性を有しながらも、地史的には、新旧を対比できる特徴を有している保護林である。</p> <p>対象保護林とその周辺区域の現地調査を実施した結果、対象保護林以外の天城山脈の尾根部に多様なタイプのブナの群落が生育していることを確認した。これらの群落もこの地域の火山地形の歴史とその植生を反映しており保護林同様に貴重である。このため保護林区域を拡充し、生物群集保護林に移行する。</p>			

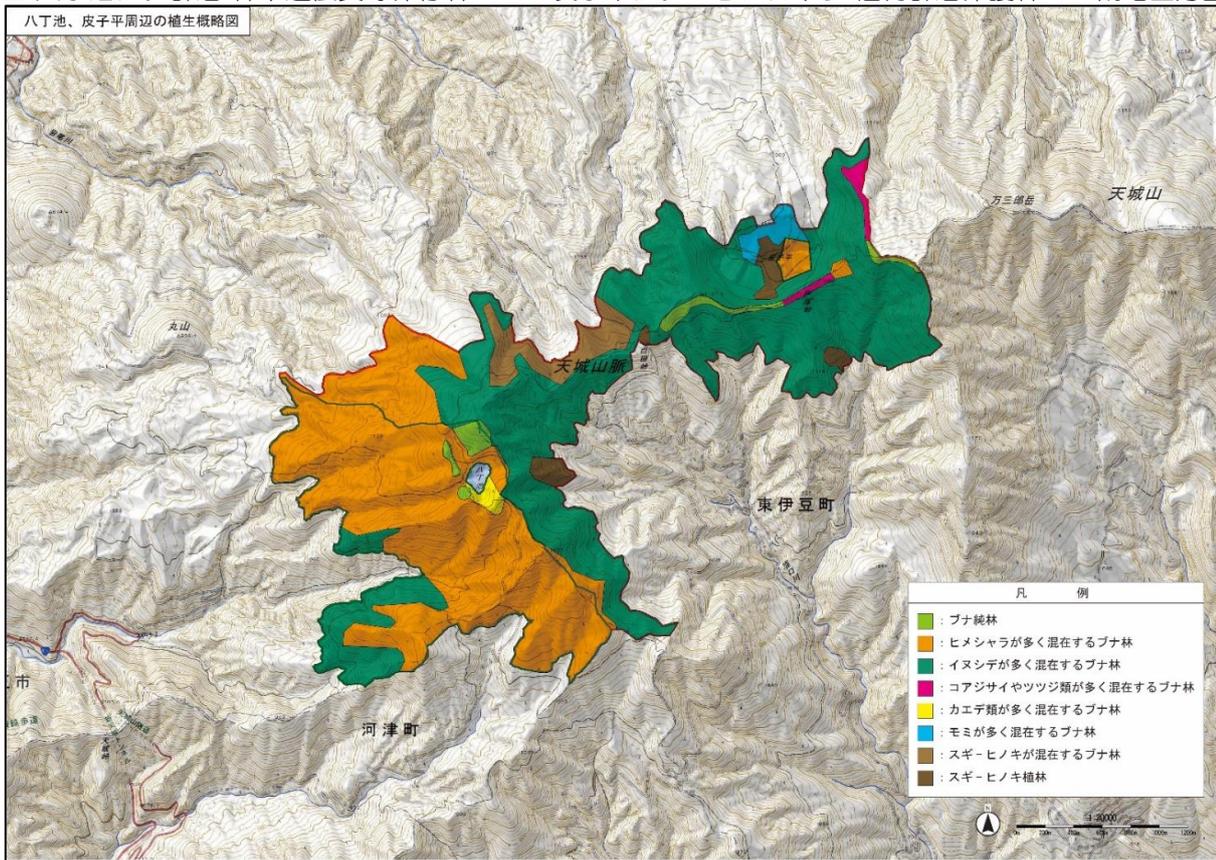
■ 八丁池ブナ群落 林木遺伝資源保存林 ～ 皮子平ブナ・ヒメシヤラ 植物群落保護林

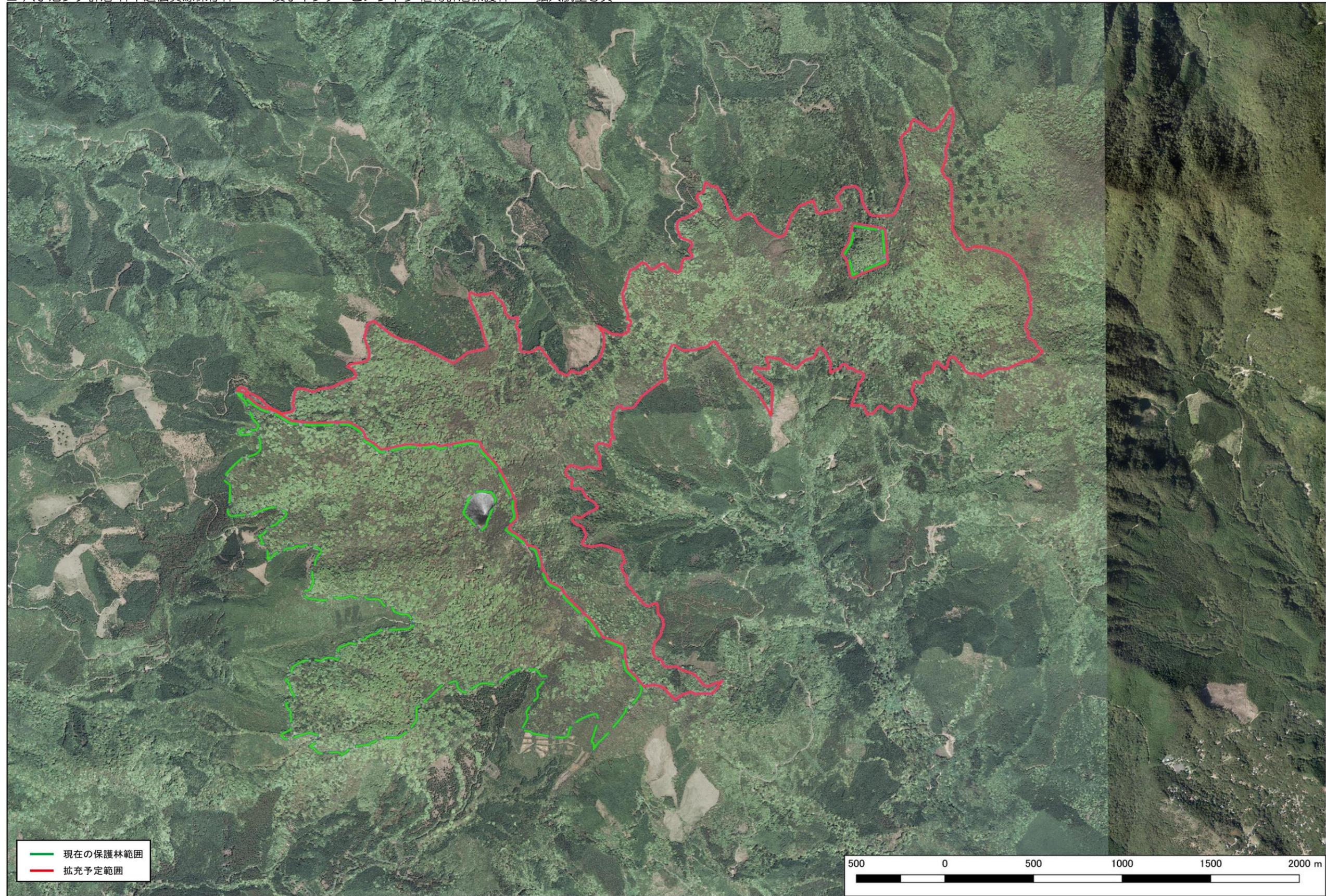


■ 八丁池ブナ群落 林木遺伝資源保存林 ～ 皮子平ブナ・ヒメシャラ 植物群落保護林 表層地質図



■ 八丁池ブナ群落 林木遺伝資源保存林 ～ 皮子平ブナ・ヒメシャラ 植物群落保護林 概略区分図

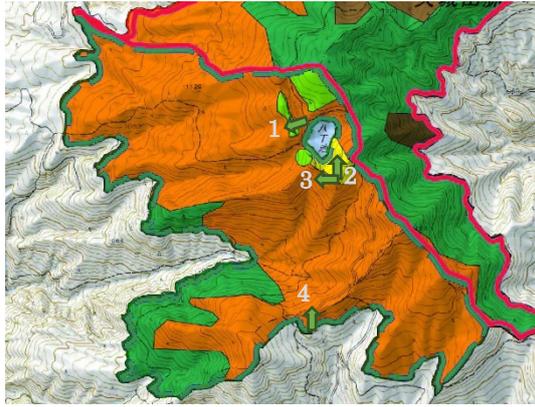




— 現在の保護林範囲
— 拡充予定範囲

500 0 500 1000 1500 2000 m

保護林内の状況（八丁池ブナ群落林木遺伝資源保存林）



凡 例	
■	ブナ純林
■	ヒメシャラが多く混在するブナ林
■	イヌシデが多く混在するブナ林
■	コアジサイやツツジ類が多く混在するブナ林
■	カエデ類が多く混在するブナ林
■	モミが多く混在するブナ林
■	スギ・ヒノキが混在するブナ林
■	スギ・ヒノキ植林

写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 八丁池の周辺のブナ純林。



写真番号 2 八丁池の周辺にはカエデ類が多く混在するブナ林が広がる。

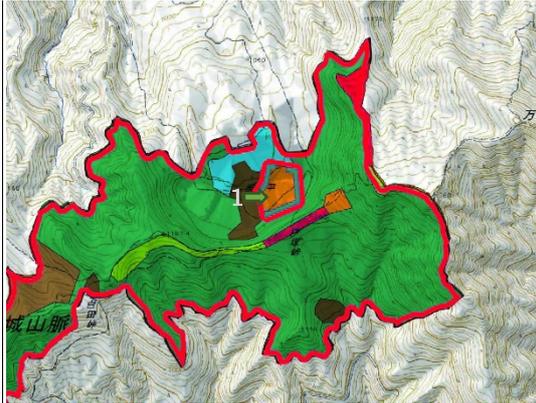


写真番号 3 八丁池の周辺にはカエデ類が多く混在するが、稜線上にはヒメシャラが多く混在するブナ林が広がる。



写真番号 4 稜線上や緩やかな斜面にはヒメシャラが多く混在するブナ林が広がっている。

保護林内の状況（皮子平ブナ・ヒメシャラ植物群落保護林）

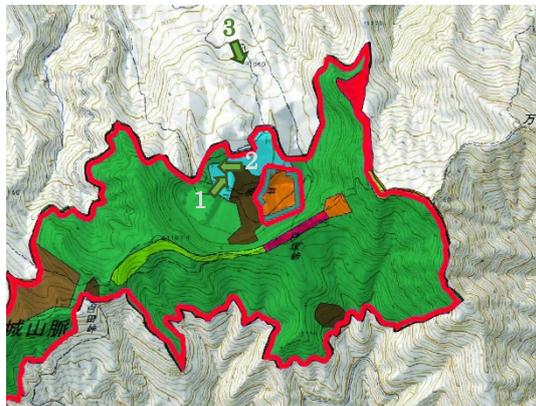


写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 保護林内のブナ林。ヒメシャラの低木が多く生育。

保護林拡充区域の状況（カワゴ平火山噴出物上の状況）



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 皮子平周辺のブナ林は、火山噴出物上にあるため、モミが混生するのが特徴である。

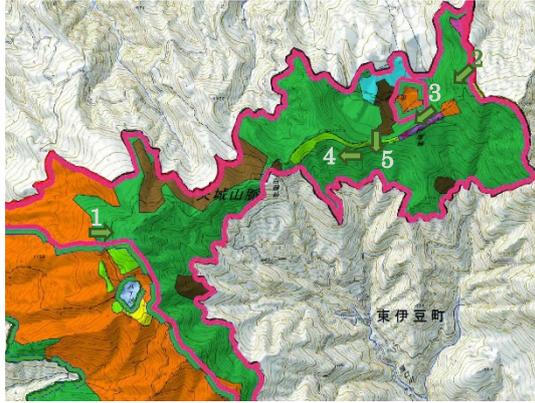


写真番号 3 ブナーモミ群落内の林床には、火山噴出物由来の礫が多く見られる。このような環境に生育するフジシダも多く見られた。



写真番号 3 カワゴ平火山噴出物は北方向へ広がっている。

保護林拡充区域の状況（天城山脈稜線部の状況）



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 天城山脈尾根周辺のブナ林。イヌシデが多く混在する他、ハリギリ、モミ等の生育も見られ、八丁池付近のブナ林とは様相が異なる。



写真番号 2 稜線付近の急斜面上のブナ林。イヌシデが多く混在する。



写真番号 3 拡充区域東部の尾根上のブナ林。コアジサイやツツジ類が多く混在。



写真番号 4 ブナ林内のモミ大径木。

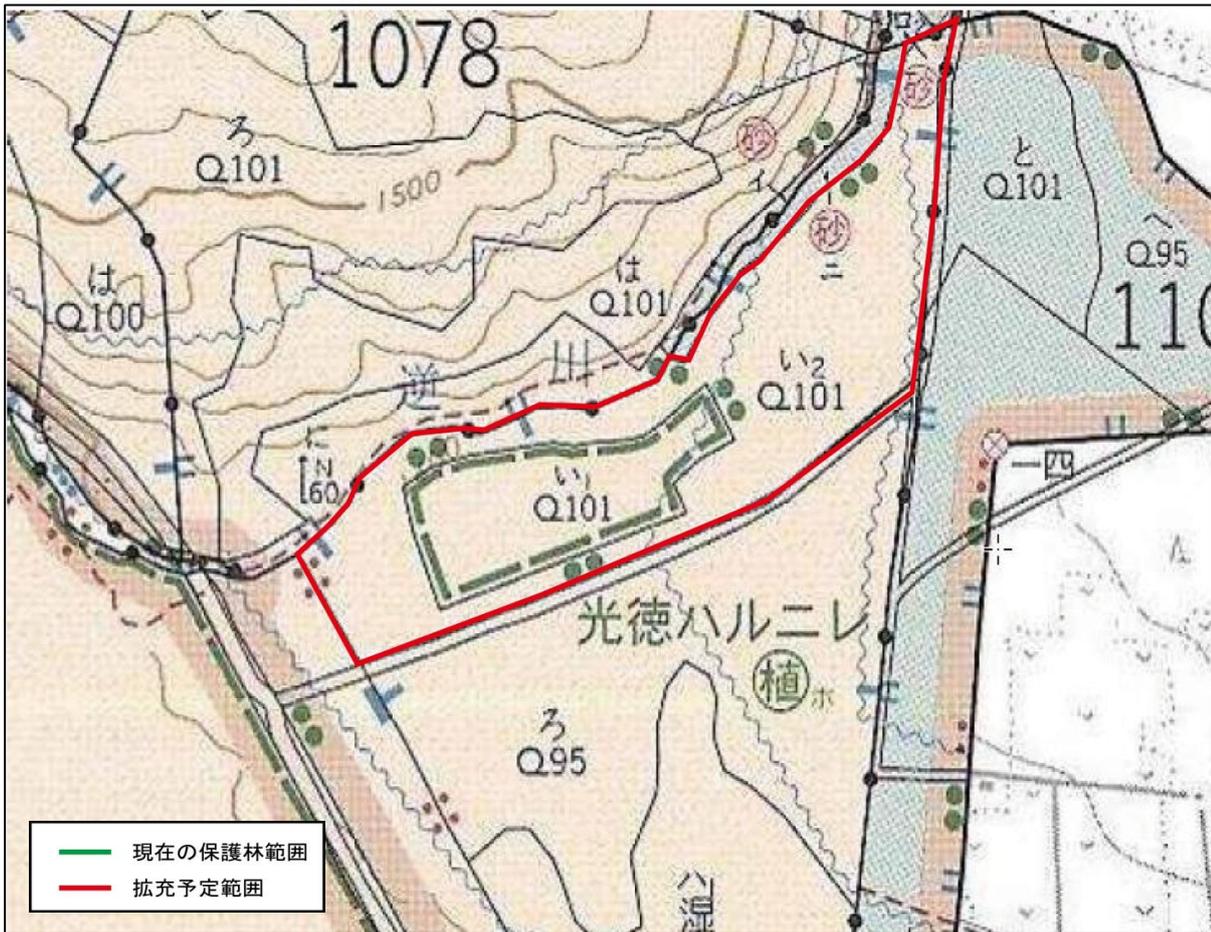


写真番号 5 稜線上のヤマグルマ大径木。これら大径木の生育が見られる点も、本区域のブナ-ヤマボウシ群集の希少性を裏づけることとなっている。

【 4 光徳ハルニレ植物群落保護林 】

既設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
植物群落 保護林	光徳 ハルニレ	3.69	ハルニレ群生地を保護するため設定する。
新設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
希少個体群 保護林	光徳 ハルニレ	11.74	ハルニレの純林からなり学術的に貴重である群生地を保護するため設定する。
保護林の再編に関する検討			
<p>光徳ハルニレ植物群落保護林は、ハルニレの優占する天然林の保護を目的とした保護林である。保護林は大径木を含むハルニレの純林からなり学術的にも貴重な個体群である。</p> <p>現地調査の結果、保護林を囲む「い2」小班においても、保護林同様にハルニレの群落を呈している区域であることから保護林区域を拡充した上で、希少個体群保護林とする。</p>			

■ 光徳ハルニレ 植物群落保護林



■光徳ハルニレ植物群落保護林 概況写真

保護林内の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 保護林内のハルニレ群落。



写真番号 2 保護林内のハルニレ群落。



写真番号 3 保護林内のハルニレ群落。

保護林拡充区域の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 保護林外のハルニレ群落。



写真番号 2 保護林外のハルニレ群落。

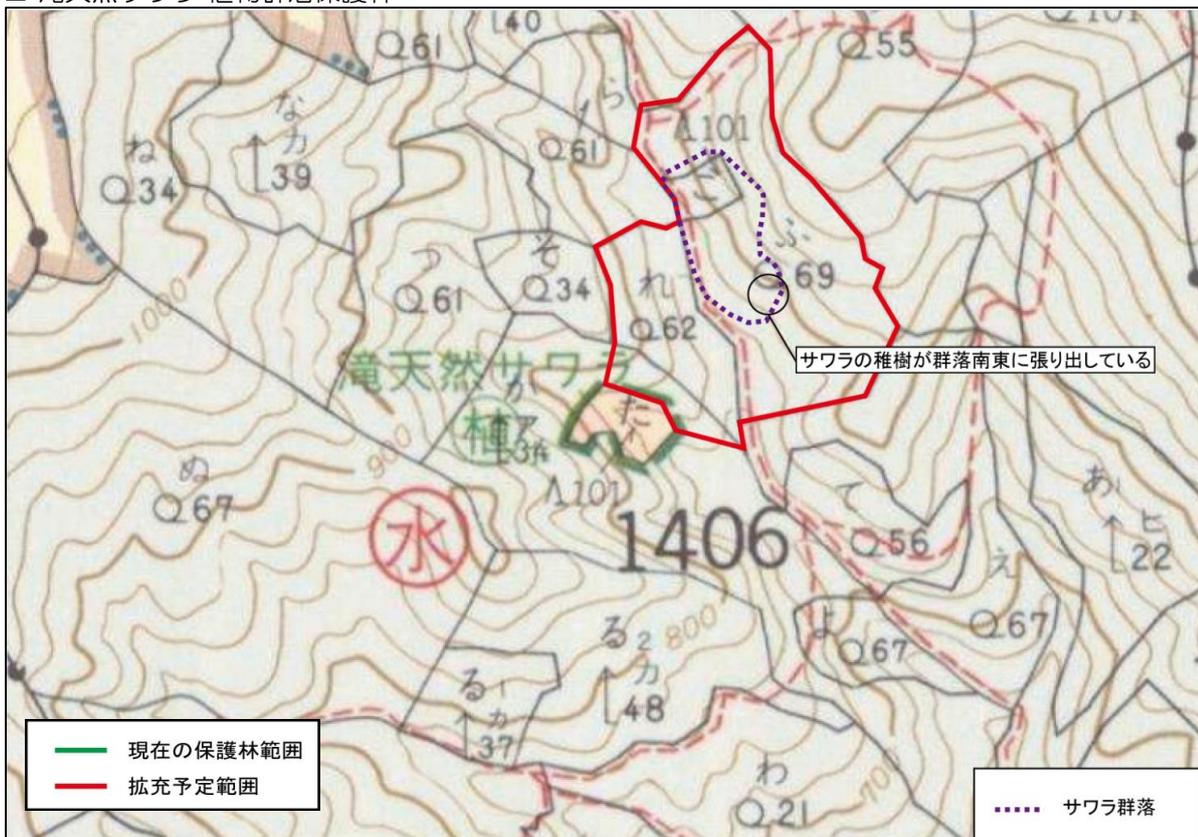


写真番号 3 保護林外のハルニレ群落。

【 5 滝天然サワラ植物群落保護林 】

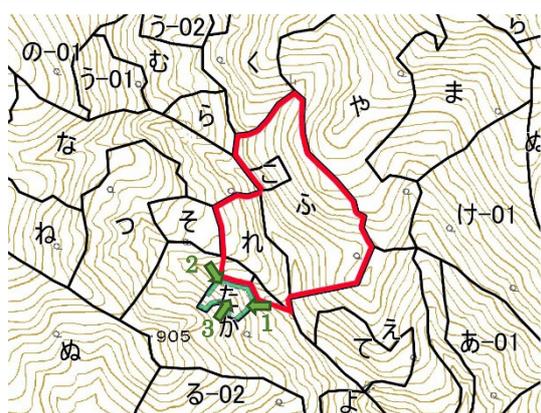
既設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
植物群落 保護林	滝天然 サワラ	0.49	天然サワラ林を保護するため設定する。
新設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
希少個体群 保護林	滝サワラ	7.51	原生的な天然サワラ林の純林を保護するため設定する。
保護林の再編に関する検討			
<p>滝天然サワラ植物群落保護林は、面積が僅かであるものの、天然サワラの純林として指定されている。南東北及び関東地方において、他には見られない原生的なサワラ純林の群落であり、希少性も高く評価される。</p> <p>現地調査により「ふ」小班でサワラの新たな分布が確認され、既存のサワラ群落の「こ」小班までを含めた区域を拡充し、希少個体群保護林とする。</p>			

■ 滝天然サワラ 植物群落保護林



■滝天然サワラ植物群落保護林 概況写真

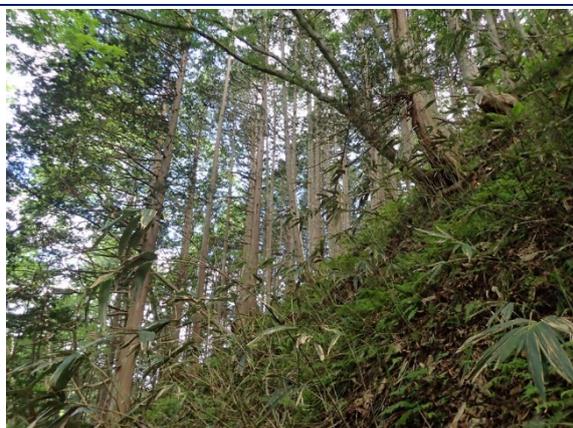
保護林内の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 保護林内のサワラ群落。

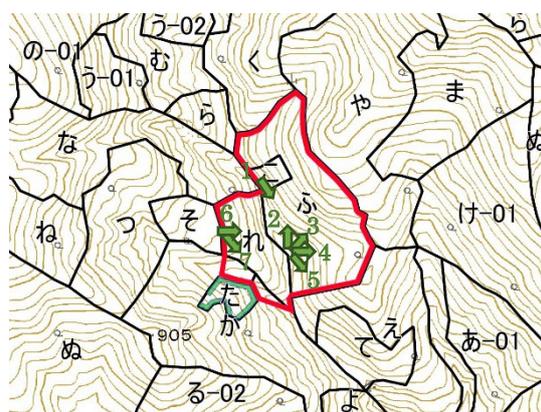


写真番号 3 保護林内のサワラ群落。



写真番号 2 保護林内のサワラ群落。土壌の少ない巨礫地に成立。

保護林拡充区域の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向



写真番号 1 新規に確認されたサワラ群落。保護林とは隣接していないが、「ふ」林小班でサワラ群落の分布が確認された。



写真番号 2 新規に確認されたサワラ群落。
樹冠形成木のサワラは直径 25cm~50cm、樹
高 25m 程度。



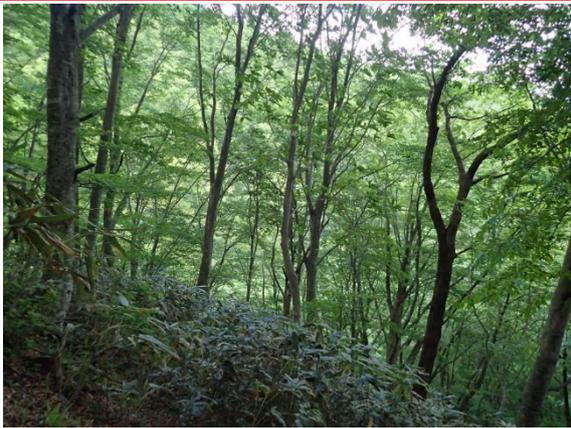
写真番号 3 新規に確認されたサワラ群落。土
壌の発達が未熟な巨礫地に成立。



写真番号 4 新規に確認されたサワラ群落。
斜面傾斜 45° 程度。



写真番号 5 新規に確認されたサワラ群落。群
落内には、稚樹や低木が豊富に見られる。



写真番号 6 「れ」林小班の状況。土壌の薄
い急傾斜地で、チシマザサ-ブナ群団が成立。

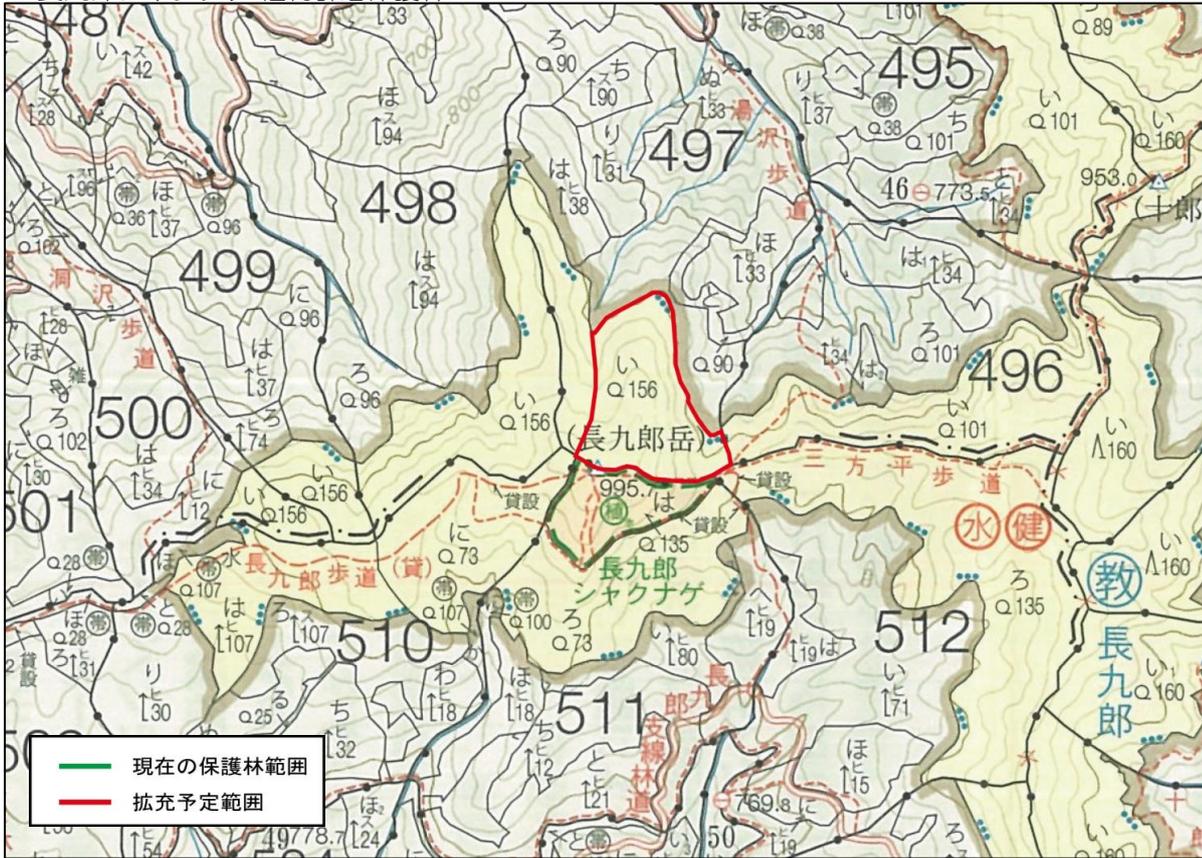


写真番号 7 「れ」林小班の状況。ブナの直径
は大きいものでも 40cm 程度。ハリギリやホ
オノキが混生。サワラの生育は認められない。

【 6 長九郎シャクナゲ植物群落保護林 】

既設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
植物群落 保護林	長九郎 シャクナゲ	2.65	長九郎山頂部にあり、ホンシャクナゲの 亜種にあたるキョウマルシャクナゲの群落 で貴重なものであり、これを保護するため 設定する。
新設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
希少個体群 保護林	長九郎 シャクナゲ	7.38	長九郎山頂部にある、地域固有種のシャ クナゲの群落で、学術的にも貴重なもので あり、これを保護するため設定する。
保護林の再編に関する検討			
<p>長九郎シャクナゲ植物群落保護林は、地域固有種であるシャクナゲの保護を 目的とした保護林である。シャクナゲの群落は、学術的にも貴重な個体群であ る。</p> <p>現地確認の結果、シャクナゲが多く生育している保護林北側の「い」小班に ついて、区域を拡充した上で希少個体群保護林とする。</p>			

■ 長九郎シャクナゲ 植物群落保護林



保護林内の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向。



写真番号 1 保護林南側尾根の急斜面に生育するシャクナゲ。

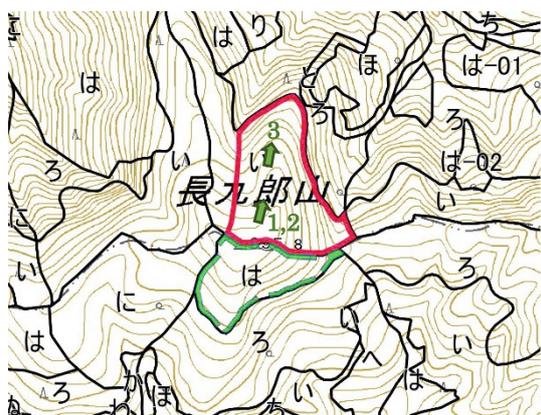


写真番号 2 保護林南側尾根の急斜面に生育するシャクナゲ。

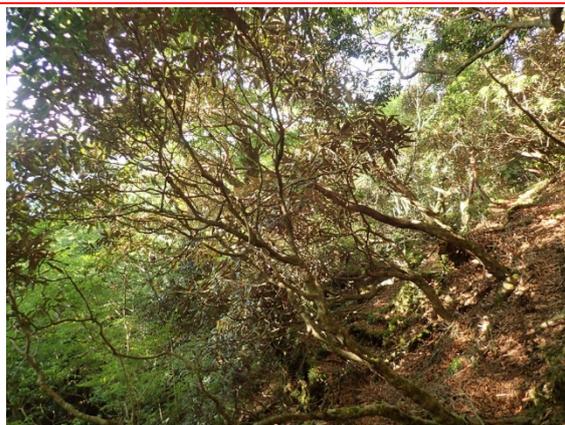


写真番号 3 保護林南側尾根の急斜面に生育するシャクナゲ。

保護林拡充区域の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向。



写真番号 1 保護林北側の尾根上にシャクナゲの生育を確認。



写真番号 2 確認された箇所には、稚樹も豊富に見られる。



写真番号 3 尾根上にシャクナゲの群落が続いている。

保護林及び拡充区域外周辺の状況



写真位置図 緑枠：現状の保護林範囲。赤枠：保護林拡充区域。矢印：撮影方向。



写真番号 1 北西側尾根にも生育が見られるが、生育密度は低い。



写真番号 2 西側尾根にも生育が見られるが、生育密度は低い。

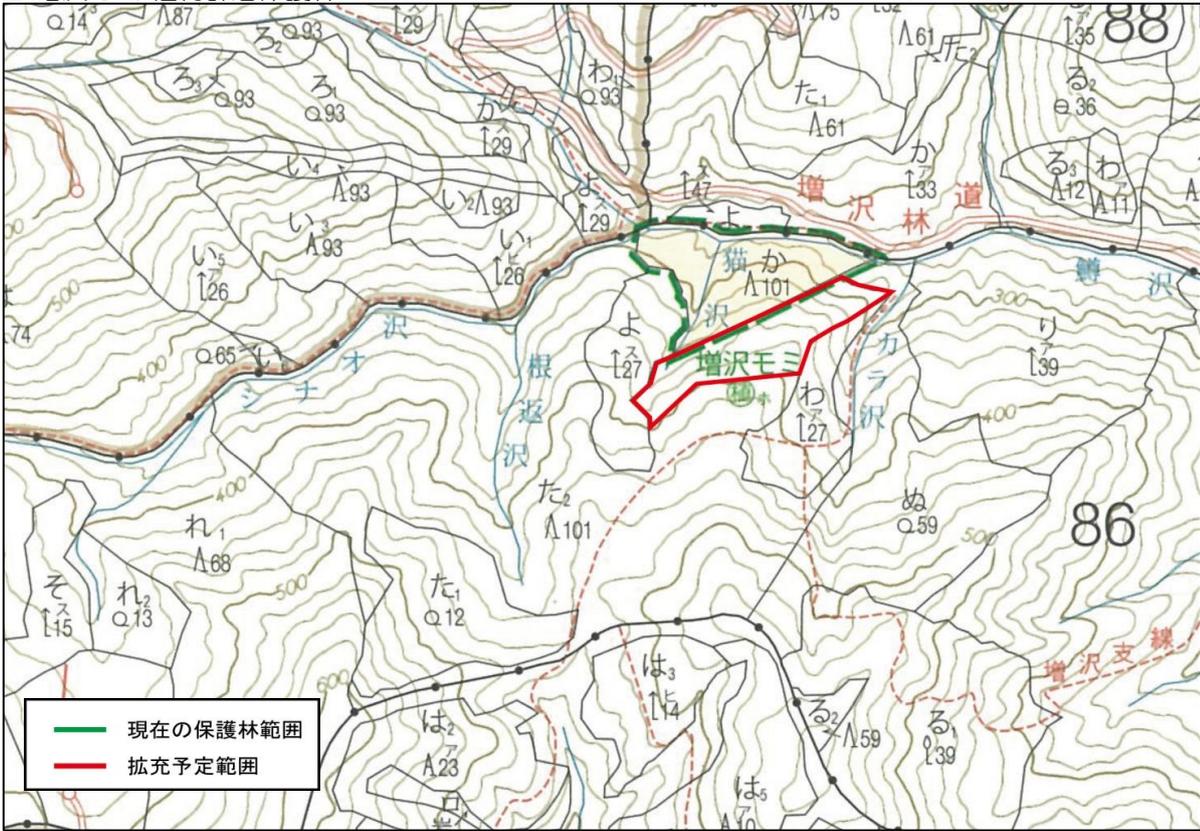


写真番号 3 南西の緩斜面にはシャクナゲの生育は殆ど認められない。

【 7 増沢モミ植物群落保護林 】

既設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
植物群落 保護林	増沢モミ	3.90	天然生モミ群落を保護するため設定する。
新設区分	名 称	面積 (ha)	設 定 目 的
希少個体群 保護林	増沢モミ	7.68	体径木が林立する原生的な天然生モミ群落を保護するため設定する。
保護林の再編に関する検討			
<p>増沢モミ植物群落保護林は、大径木の天然モミが林立する群落である。南東北及び北関東の地方においては、類似する林分がない原生的な群落であり希少性は極めて高い。</p> <p>現地確認の結果、保護林に隣接する南側の「ぬ」小班にも保護林同様にモミの優占する林分が広がっていることから、一部を区域拡充した上で、希少個体群保護林とする。</p>			

■ 増沢モミ 植物群落保護林



■増沢モミ植物群落保護林 概況写真

保護林内の状況



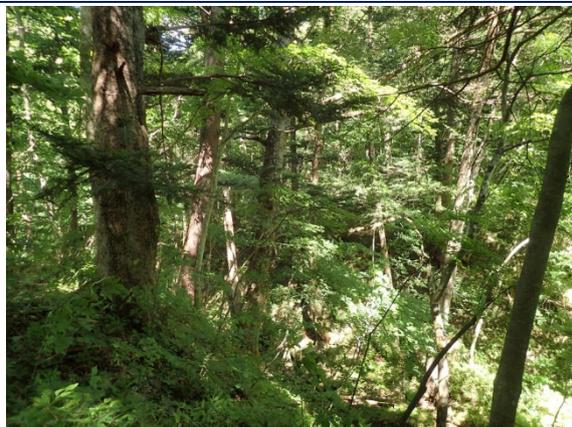
写真位置図 青枠：現状の保護林範囲。ピンク枠：保護林拡充区域。



写真番号 1 保護林遠景。湿潤な斜面中部～下部の陽向地にモミが生育。



写真番号 2 モミ群落西端から東方向。モミ大径木が優占。



写真番号 3 保護林内はモミ大径木が優占。

保護林拡充区域の状況



写真位置図 青枠：現状の保護林範囲。ピンク枠：保護林拡充区域。



写真番号 1 拡充区域内にみられるモミ群落。各階層にモミが生育し、大径木に生長したモミも点在して生育。



写真番号 2 拡充区域内に見られるモミ群落。モミ低木も多く見られる。



写真番号 3 拡充区域の斜面中部にモミが多く見られる。



番号 4 拡充区域斜面上部では、モミが少なくなり、代わりにキタゴヨウ、サワラが優占。



番号 5 谷部にはコシアブラ、カエデ類等の低木が密生し、モミは見られない。

保護林及び拡充区域外周辺の状況



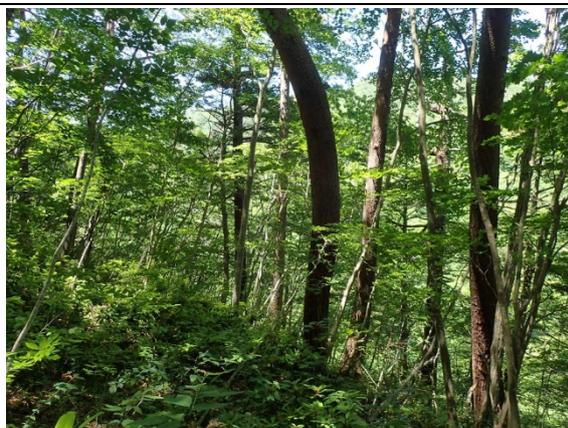
写真位置図 青枠：現状の保護林範囲。ピンク枠：保護林拡充区域。



写真番号 1 拡充区域東側の尾根の東側はスギ植林。



写真番号 2 保護林外の尾根部は、アカマツ、コナラが優占する二次林。



写真番号 3 拡充区域南側の尾根上はアカマツ優占。